

第 15 回京都フィルムメーカーズラボ（Kyoto Filmmakers Lab 2022）結果報告

令和 5 年 1 月 27 日
京 都 文 化 博 物 館



▶東映チーム



▶松竹チーム

京都フィルムメーカーズラボ（以下、KFL と略称）は、国内・海外の若手映画製作者を対象にして、東映京都撮影所、松竹撮影所の各オープンセットを使い、短編時代劇作品を製作するワークショップである（公用語は英語）。時代劇セット、美術、照明、衣裳など本編映画と同じ施設・道具を使用し、京都伝統の本格的時代劇を体験する。またこれにより、内外の若手映画作家間のネットワーク形成を支援する。

15 回目を迎えた今年は、政府の水際対策が緩和されることを見越して、海外からの参加者募集を「ハンズオン時代劇」「マスターズセッション」両プログラムで再開した。

ウェブ公募（2022 年 7 月 20 日〔水〕～9 月 2 日（金））はハンズオン時代劇、マスターズセッションに分けて応募を行なった。結果、ハンズオン時代劇は日本含む 32 カ国から 121 名（日本在住 20 名）、マスターズセッションは 18 カ国から 45 名（日本在住 10 名）の応募があった。審査の結果、ハンズオン時代劇は 20 名（日本在住 10 名含む）、マスターズセッションでは 19 名（日本在住 9 名含む）が通過した。

<ハンズオン時代劇>

宮西慶二郎氏（撮影監督／東映）、永島聡氏（プロデューサー／松竹）監修のもと、ハンズオン形式による直接指導の時代劇製作を 2022 年 11 月 7 日（月）～11 月 9 日（水）の 3 日間にわたって東映京都撮影所、松竹撮影所で開催。

<マスターズセッション>

2022 年 11 月 3 日（木・祝）～11 月 6 日（日）まで、京都文化博物館および旧武徳殿を会場に、殺陣の実技講座を含め 13 のセッションを開催。

なお、宿泊については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年の合宿形式は取りやめ、各自で手配とした。

主 催： 京都ヒストリカ国際映画祭実行委員会

〔京都府、京都文化博物館、東映株式会社京都撮影所、株式会社松竹撮影所、株式会社東映京都スタジオ、巖本金属株式会社、株式会社ディレクターズ・ユニブ、立命館大学〕

共 催： 第 35 回東京国際映画祭実行委員会、イタリア文化会館・大阪、KYOTO Cross Media Experience 実行委員会

協 力： 京都クロスメディア推進戦略拠点

1 参加者募集

期 間： 2022 年 7 月 20 日（水）～9 月 2 日（金）

方 法： ウェブページからの申込み（3 分以内の自作サンプルをオンラインで提出）

応募件数： 166 名（ハンズオン+マスターズセッションの応募合計）

国籍内訳：アフガニスタン 1 名、アメリカ 5 名、オーストラリア 2 名、アゼルバイジャン 1 名、
バングラデシュ 6 名、イギリス 1 名、ブルガリア 5 名、カナダ 2 名、モソト/カナダ 1 名、中
国 2 名、ドミニカ 1 名、フィリピン 26 名、ドイツ 3 名、グアテマラ 1 名、ハンガリー 1 名、イ
ンド 25 名、インドネシア 5 名、イタリア 2 名、イタリア/日本 1 名、日本 24 名、リトアニア
1 名、マレーシア 10 名、ネパール 11 名、ノルウェー 1 名、パキスタン 2 名、パラグアイ 1 名、
ポーランド+カナダ 1 名、ポーランド 1 名、プエルトリコ 1 名、シンガポール 3 名、スペイン 3
名、スリランカ 1 名、スイス/フランス 1 名、台湾 4 名、タイ 2 名、トリニダード・トバゴ 2
名、ベトナム 6 名

2 参加者審査

審査日： 2022 年 9 月 4 日（日）

会 場： 京都文化博物館 7 階会議室

審査員： 高橋剣氏（東映京都撮影所）、永島聡氏（松竹撮影所）

審査通過： 39 名（ハンズオン時代劇 20 名、マスターズセッション 19 名）

内 訳：

- ・日本人 14 名、外国人 25 名
- ・男性 17 名、女性 22 名
- ・実際参加数：ハンズオン時代劇 18 名、マスターズセッション 15 名

3 シナリオ選考コンペ、監督選考ならびに参加者撮影担当割り振り

シナリオ選考コンペと採用シナリオについて：

- ・参加者から、3 分を目処に作品シナリオを公募した結果、13 本のシナリオの提出があった。
- ・内容、使用可能なセット、俳優等の条件から、以下のシナリオを選出。

『梅とうさん』 作：Amin Hamid Okamoto（東映チーム）

『晴れて成仏』 作：小野寺ひかり（松竹チーム）

ハンズオン時代劇の参加者は上記審査会での評価点上位 20 名とし、評価点と参加者の希望を勘案して
各担当を割り振った。

【東映チーム】

スーパーヴァイザー：宮西慶二郎（撮影監督）、Ken Takahashi（プロデューサー）

Connor Gaston（監督/カナダ）、Eunice Alexander（撮影/マレーシア）、Jacob Holynski（撮影助手/ポー
ランド）、Divya Kharnare（助監督/インド）、Jing Na 菁娜（助監督/中国）、Cheuk Ying Chiu（録音/香
港）、Mai Nakanishi 中西舞（美術/日本）、Amin Hamid Okamoto 岡本 昂明ハミッド（照明/日本）、Hong
Anh Nguyen（製作/ドイツ）※ 渡邊花奈はキャンセル

【松竹チーム】

スーパーヴァイザー（プロデューサー）：Yuji Onishi/大西悠嗣, Tetsuya Kumashiro/熊代哲也, Yasuyuki
Ikumi/井汲泰之, Satoshi Nagashima/永島聡

Kevin Haefelin（監督/スイス）、Arif Khan（撮影/イギリス）、Hikari Onodera 小野寺 ひかり（助監督/
日本）、Kasumi Minami 南香好（助監督/日本）、Jaye Jacinto（照明/フィリピン）、Mana Kaneko 金子
愛奈（照明/日本）、Dimon John（録音/スリランカ）、John Michael Perez（美術/フィリピン）、Mitsuhiro
Honda 本田広大（製作/日本）※ Ieva Sakalyte, Kulanandini Mahanta はキャンセル

【マスターズセッションからの参加者】

Angel Radev (ブルガリア)、Danielle Yen (台湾)、Chee Yuen Chong (マレーシア)、Real Randolph Joseph Florido (フィリピン)、Jessa Rose Espina (フィリピン)、Kaizer Matsumunyane (モソト)、Wey Yinn Teo (マレーシア)、Ewa Kasp (ポーランド/カナダ)、Noura Al Kadri (ブルガリア)、Matthew Chozick (日本)、Tatsuya Shirato 白戸達也 (日本)、Daisuke Hirose 廣瀬大輔 (日本)、Natsumi Ishii 石井夏実 (日本)、Junpei Imamichi 今道淳平 (日本)、Hitomi Kawashima 川嶋一実 (日本)

※ Angelina Marilyn Bok、Toshab Raj、みますめぐみ、大久保龍之介はキャンセル

4 京都フィルムメーカーズラボ・日程

■マスターズ・セッション

会場：東映京都撮影所、松竹撮影所、京都文化博物館、旧武徳殿

2022 年 11 月 3 日 13:00～13:30

【MS01】全体オリエンテーション 会場：京都文化博物館 別館ホール

参加者、撮影所スタッフそれぞれの自己紹介およびラボ全体の概要と、移動・宿泊やその他注意点などを説明。(参加者数：14 カ国 34 名)



13:40～16:10

ライトニング・トーク 会場：京都文化博物館別館ホール

【MS02】KFL 参加者による自己紹介。自身の実績、次回のプロジェクト、夢など。(参加者数：14 カ国 34 名)



11 月 3 日 17:00～18:00

【MS03】BLNTN セッション by ピーター・チョウ (オンライン登壇) 会場：京都文化博物館別館ホール

韓国のコンテンツデータベース、マッチング会社 BLINTN の代表ピーター・チョウ氏 (オンライン登壇) より、近年の韓国の映画業界の潮流について講演。(参加者数：14 カ国 34 名)



11月3日 18:30~19:30

【MS04】ビエンナーレ・カレッジ・シネマ・トーク（オンライン登壇） 会場：京都文化博物館別館ホール
 ビエンナーレ・カレッジ・シネマのサヴィーナ・ネイロッティ氏による、ヴェネツィア国際映画祭が行う若手映画作家育成事業についてのトーク。（参加者数：14カ国 34名）



11月4日 10:30~12:00

【MS05】殺陣講座 会場：旧武徳殿（京都市武道センター）

東映京都撮影所殺陣師による、京都の殺陣の精神とスタイルのレクチャーと実演。
 （参加者数：14カ国 34名）



11月4日 13:30~16:40

【MS06】マスタース・トーク 1 by 三池崇史

会場：京都文化博物館 3階フィルムシアター

ヒストリカ国際映画祭“ヒストリカ・フォーカス 空想時代劇の系譜”プログラム『無限の住人』を鑑賞し、三池崇史監督から、作品の内容、これまでのキャリア形成の過程と、若手へのアドバイス、自身のスタンスについてのトーク。

（参加者数：14カ国 105名）



11月5日 11:00~12:00

【MS07】カムバック・サーモン・プロジェクト

会場：京都文化博物館別館 2 階講義室

過去の KFL 参加者である前田直樹（映画監督、KFL2010 年参加者）のキャリア及び今後についてのトーク。（参加者数：14 カ国 34 名）



11月5日 13:00~14:00

【MS08】HISTRICA × XR

会場：京都文化博物館 別館ホール

NHK大河ドラマチームから同局のDX推進の最前線にいる石原渉氏を招いて、「バーチャルプロダクション」の現在とこれからについて、「まるデジプロジェクト」担当の永島聡氏による「バーチャルプロダクション最前線「デジタルテクノロジーが実現する映像制作の現在、そして未来」と題した講演。（参加者数：14 カ国 80 名）



11月5日 15:30~16:30

【MS09】TIFF セミナー by 市山尚三

会場：京都文化博物館 別館 2 階講義室

東京国際映画祭のエグゼクティブディレクター市山尚三氏から、東京国際映画祭の歴史、役割、今後について、またアジア圏の国際映画祭についての講演。（参加者数：14 カ国 34 名）



11月5日 17:00~18:00

【MS10】ぴあフィルムフェスティバル セミナー 会場：京都文化博物館 別館2階講義室

ぴあフィルムフェスティバル(PFF)のディレクター、荒木啓子氏による講演。PFFの歴史と意義、また求める作家についてのトーク。(参加者数：14カ国34名)



11月6日 10:30~12:00

【MS11】マスタース・トーク2 by 椎井友紀子、相原裕美 会場：京都文化博物館別館ホール
2名の女性プロデューサー椎井友紀子、相原裕美を迎えてのトーク。(参加者数：14カ国34名)



11月6日 13:00~14:30

【MS12】マスタース・トーク3 by マイケル・シンガー 会場：京都文化博物館別館ホール

ジェリー・ブラッカイマー氏と組み、ユニットパブリシストとして活躍するマイケル・シンガー氏のトーク。(参加者数：14カ国34名)



11月6日 13:00~14:30

【MS13】マスタース・トーク 4 by 小泉堯史

会場：京都文化博物館別館ホール

『峠 最後のサムライ』の小泉堯史監督から、作品や黒澤明監督についてのトーク。（参加者数：14 カ国 119 名）



■ハンズオン時代劇

会場：東映京都撮影所、松竹撮影所、京都文化博物館

2022 年 11 月 7 日 10:00~11:00

【H1】全体オリエンテーション 会場：東映京都撮影所 プロダクションルーム

参加者、撮影所スタッフそれぞれの自己紹介およびラボ全体の概要と、移動・宿泊やその他注意点などを説明。（参加者数：12 カ国 18 名）

14:00~

【H2】プリプロダクション 会場：東映京都撮影所、松竹撮影所

東映チーム・松竹チームに分かれ、使用スタジオ、セット等を確認後、撮影・演出プランの打合せを行う。（参加者数：12 カ国 18 名）



11月8日、9日 9:00～18:00

【H3～H4】ハンズオン時代劇・短編時代劇撮影

会場：東映京都撮影所、松竹撮影所

東映チーム・松竹チームに分かれ、2日間で作品撮影。（参加者数：12カ国18名）



■京都フィルムメーカーズラボ+マスターズセッション・オンライン・ワークスペース

<KyotoFilmakersLabhq.slack.com>

アプリ：Slack

オンラインでプリプロ打合せ、マスターズセッション講座事前説明、質問、討論。

（交流メッセージ数 2,409 件）

